



祭典合唱団ニュース

ひろしま

NO. 7
2021年10月3日
発責：実行委員会

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます
よろしくお願ひしま〜す！

神崎文子さん (A)



7月18日の県民文化センター練習室でのレッスンの時、「ひろしまへ」の曲ができた経緯を話したので憶えておられる方もいると思います。「ひろしまへ」は益田通先生の教え子の中村暢之さんが

作曲した曲で元々はテノール歌手の錦織健さんが歌われていた曲です。被爆70年に、益田通先生が中村さんに女声合唱に編曲することを委嘱され、「コール・ブルーメ」に在籍していた時に初演。全国大会で審査員奨励賞を頂いた思い出の曲です。

昨年の「被爆75年ひかりにむかって 2020日本のうたごえ祭典inひろしま」で「みるく世がやゆら」を歌う合唱団員を募集すると聞き、是非歌いたいと参加しました。

緊急事態宣言なので呉の町から広島へレッスンに通うことをためらっていたところ、ZOOMでの配信でレッスンが出来ているのがとてもありがたいです。

今は「呉混声合唱団」の団長として、11月3日に演奏会を控えて忙しくしています。「呉うたごえたんぼほ」にも所属して高田龍治先生の指揮で歌っています。

10月26日のレッスン

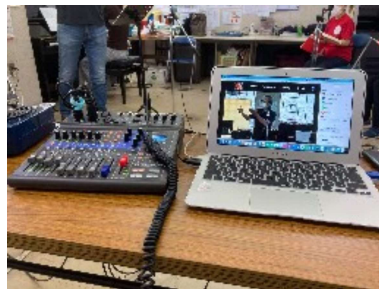
9月23日(木・祝)は音楽センターひろしまから、ZOOM配信でのレッスンを朝、昼、晩と3本立てで行いました。

9月23日(木・祝)は音楽センターひろしまから、ZOOM配信でのレッスンを朝、昼、晩と3本立てで行いました。

「うたごえ新聞」(10月4日号)のインタビュー記事で、三上先生からの「宿題」＝「普遍性」の解答が明らかになっています。是非お読みください。

第一ラウンドは、三次(作木町)から早朝に駆けつけていただいた三上和伸先生のレッスン。「組曲・「こわしてはいけない」「抱きしめよう」の2曲と「ひろしまへ」をいつものように発声方法にまで指導

第二ラウンドは、高田龍治先生の指揮・指導で「生命の詩」と「生存の叫び」。「生命の詩」はコンサート・ヒロシマの最初に演奏される曲で、和太鼓・ブラ



ZOOMで配信中です

スに合唱という編成での演奏になる勇壮な楽曲。本番指揮は、小川秀樹さんです。今福優さんの直球のような詩が胸に届いてきます。この日は、当日和太鼓演奏者となる大野正信さんがバスパート合唱で参加されました。(企画ニュースNo.7に詳細掲載)

「生存の叫び」は作曲者で、本番の指揮を担当する高田龍治先生の指導でした。この楽曲の誕生の様子、映画「ボヘミアン・ラプソディー」からのインスピレーション、込められた深い想い、ロックのリズムを生かすために故・小林康浩さん編曲のピアノ伴奏を意識して歌って欲しいことなど、作曲者だからこそその興味深い話が披露されました。

第三ラウンドは、祭典男声合唱団が歌う「俺たちの胸の火は」「機関車の歌」を、ナッパーズのレッスンをZOOMで配信することで行いました。指導はナッパーズの常任指揮者、高田龍治先生。

2曲ともに松永勇次さんが今祭典のために新しく伴奏譜を書いたもので、本番では松永勇次さんがアコーディオンの伴奏で参加されます。

「俺たちの胸の火は」はうたごえのレジェンド・荒木栄さんのベスト3に入る名曲だと、高田先生の想いが伝わる熱のこもった指導でした。

「機関車の歌」は原爆直後のヒロシマ・ナガサキで

いち早く救援列車を走らせた国鉄労働者の群像。「それは使命、それは愛」がキーワード。国鉄・JR出身の高田龍治先生の真骨頂を發揮しての熱心な指導でした。伴奏は三好敬子先生。朝から晩まで一日中伴奏でした。お疲れ様でした。

ZOOMで配信するためのスタッフは山上茂典さん、平井充晴さん、山広雄吉さんご苦労様でした。



高田先生の指揮・指導

9月26日 松本先生レッスン

9月26日の合同レッスンも音楽センターからZOOM配信で行われました。

松本憲治先生による「広島愛の川」と「We Are The World」の指導。

「音楽を感じてくださいね」「深く抒情的に。義務的に歌わない」「すぐ忘れないでね」とユーモア溢れる熱い指導が行われました。